

# 子どもとできる創造的な対立解決



## 問題に向き合う姿勢を育む

「子どもとできる創造的な対立解決」は、自分も相手も尊重して行なう問題解決の方法です。

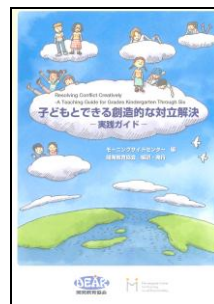
子どもの態度や行動の裏には様々な気持ちや言葉にできない思いがあります。大人はそれを一緒に考え、引き出してあげることが可能です。子どもと一緒に気持ちや思いを掘り下げていくことを何度も繰り返すうちに、子ども自身が自分の気持ちを表現したり、相手の気持ちを思いやるようになります。その結果、子どもたちは自分に自信をつけ、より協力的な人間関係を築くことができるようになります。

本研修会では参加者のみなさまに、自分の気持ちや身近な問題と向き合ってください、そこからの気づきをもとにすすめていきます。

学校の教室づくり、職場や家庭での人間関係づくりにもヒントとなるプログラムがたくさんあります。

また、参加者の経験共有も含めて、現場での実践について話し合う時間も設けております。

みなさまの積極的なご参加をお待ちしております。



『子どもとできる創造的な対立解決～実践ガイド』（DEAR, 2010）の中のワークを中心に紹介します。

■日時： 2010年7月31日(土)10:30～17:00  
8月1日(日)10:00～16:30

■会場： 富坂キリスト教センター1号館 会議室  
(東京都文京区小石川 2-9-4)

地下鉄後樂園駅・春日駅下車徒歩10分)

■参加費(2日間)：一般：8,000円 会員：6,000円

■対象：教員、教育関係者、NGO職員など、テーマに関心がある方

■定員：30名(先着順 ※2日間参加される方を優先させていただきます。また人数が多い場合は、教員・学校関係者、NGO/NPO関係者を優先させていただきます。)

■申し込み方法：裏面参照

■主催：(特活)開発教育協会

### ★講師紹介

・中村 絵乃

(特活)開発教育協会 事務局長

2006年に1年間、米国のNPO、Morningside Center で対立解決教育について学ぶ。帰国後、DEAR 内部に対立解決教育研究会(CR教育研究会)を立ち上げ、日本におけるCR教育のプログラム開発を進める。

### ・CR教育研究会メンバー

林 立彦 (高校教員)

吉田 直子 (大学院生)

藤木 優子 (高校教員)

渡部 由紀子 (日本語教師)

ほか

(特活)開発教育協会

〒112-0002 東京都文京区小石川 2-17-41-3F

TEL:03-5844-3630 FAX:03-3818-5940

E-mail: main@dear.or.jp URL: http://www.dear.or.jp

## プログラム予定 (内容は変更する場合があります)

### 7月31日(土)「対立に向き合う」

- 10:30～ 自己紹介・2日間の流れ共有  
11:00～ セッション1 解説:創造的な対立解決とは  
11:30～ セッション2 学習環境づくり  
12:00～ セッション3 対立とは  
12:30～ 昼食/休憩  
13:30～ セッション4 ウィン・ウィン型解決法1  
14:30～ セッション5 いろいろな気持ち  
16:00～ ふりかえり  
17:00 終了

### 8月1日(日)「創造的な対立解決」

- 10:00～ 昨日のふりかえり・流れ共有  
10:20～ セッション6 報告:日本の実践  
11:00～ セッション7 ウィン・ウィン型解決法2  
12:30～ 昼食/休憩  
13:30～ セッション8 創造的な対立解決の実践  
15:00～ セッション9 ディスカッション  
「各現場での実践」  
16:00～ ふりかえり  
16:30 終了

## ■お申し込み方法

- ① 下記「参加申込書」に必要な事項をご記入の上、開発教育協会にお送り下さい。
- ② 申し込み確認と参加費振込のご案内(メール又はファックスにて)が届きます。
- ③ 参加費を下記振込先にご入金下さい。
- ④ 振込みが確認された方から、参加確認のご案内(メール又はファックスにて)を差し上げます。

<ご入金先>

郵便振替 口座番号 00180-8-50096

加入者名 (特活) 開発教育協会

銀行振込 口座番号 三菱東京UFJ銀行 高田馬場支店 普通 1509685

名義 特定非営利活動法人 開発教育協会

(トクテイヒエイリカツドウホウジン カイハツキョウイクキョウカイ)

※講座は定員になり次第、締め切ります。お早めにお申し込み下さい。

※定員が限られておりますので、万が一キャンセルの場合はお早めにご連絡下さい。

## ワークショップ参加者の声

- ・濃い内容のものを2日間でコンパクトにまとめてあった。すぐに学校で使える教材、ヒントをもらった。(中学校教員)
- ・授業のテクニックを得るつもりで来たのに自分と向き合うことになるとは。この経験・知識を同僚、管理職にぜひ伝えたい。(高校教員)
- ・目からうろこ!気持ちとニーズを理解し、感じる事が大切だと思った。(NGO職員)

## 「子どもとできる創造的な対立解決」参加申込書

TO: 開発教育協会 FAX 03-3818-5940 Email: event@dear.or.jp

月 日

|                      |                            |
|----------------------|----------------------------|
| ふりがな<br>●お名前:        | □会員/□非会員<br>※いずれかに✓を入れて下さい |
| ●ご住所(〒 )             | ●TEL:                      |
|                      | ●FAX:                      |
| ●ご所属・勤務先:            | ●E-mail:                   |
| ●ワークショップへのご要望・ご質問など: |                            |

※申込書にご記入いただいた情報は適正な管理・利用と保護に万全を尽くします。上記の情報は本講座の資料作成のほか、今後当会からのイベントなどの広報に利用させていただきます。